

# 医学英語 3

【単位数：1単位，授業13コマ(定期試験含まず)】

## 1 科目責任者

平田亜紀 准教授(外国語)

科目担当者

小川恭佑 助教(外国語)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(Ⅲ-4-b, Ⅲ-10-b)

- ① コンピテンスである「医学知識と科学的探究心」を理解するために、以下のことを学修する。
  - (1) 疾患の病態と症候を説明でき、その鑑別と診断を計画できることを、英語でも実践できるよう学習をする。
  - (2) 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBMを実践できるように必要な基礎的な概念の習得のために、英文で書かれた医学論文を読む。
- ② これらを通して生涯にわたって自律的に学び続け、また自ら発信することができるようになるための基礎となる語学力を身に付けることと、患者の社会的背景(経済的・制度的側面等)が病いに及ぼす影響への理解を深めることがねらいである。

### (2) 学修目標

- ① 身体の構造や機能、疾患・症状に関する基礎的な語の意味を理解し、綴り・発音が実践できる。
- ② 医療面接で使用される定型的な表現や実践的な対話表現が理解できる。
- ③ ケーススタディや研究論文で登場する疾患・症候について自ら調べることができる。
- ④ 調べものをするとき使用すべき信頼性の高いソースを見分けることができる。
- ⑤ 根拠に基づいた医療(EBM)の概念のうち、特に5つのステップと background question/foreground question の違いが概説できる。
- ⑥ 臨床研究論文の一般的な構成が概説できる。
- ⑦ 臨床研究論文の PICO と、用いられている研究デザインを識別することができる。
- ⑧ 臨床研究論文に頻出する英語表現を認識することができる。

### 3 成績の判定・評価

#### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	45%	課題論文に関する試験を行う。 記述式を原則とし、一部多肢選択問題が含まれる場合がある。
演習(語彙小テスト)	○	15%	各5%, 自己採点式 小テスト演習の実施及び採点方法： <u>授業開始から5分を過ぎて入室した学生の当日の受験は認めない。</u> 欠席時の対応は科目責任者へ問い合わせをすること。
ケーススタディ演習	○	20%	15% 英語教員の解説回にかかる演習 5% その他の教員の解説回にかかる演習 いずれも指示されたタスクの完成度により判断。当日の授業内の課題のみではなく前後の回に実施される内容も含まれるので注意すること。
論文読解演習	○	20%	15% 英語教員の解説回にかかる演習 5% その他の教員の解説回にかかる演習 いずれも指示されたタスクの完成度により判断。当日の授業内でのみ課題が出されるのではなく前後の回に実施される課題も含まれるので注意すること。
態度	○	—	態度不良の場合は、総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

#### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

#### (3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は、再試験を実施する。

再試験は定期試験に準ずる試験と、追加課題を課す。60%以上を合格とする。

#### (4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

定期試験についての総括を、AIDLE-Kを通じて行う。その中で、再確認が必要な項目を指摘する。

### 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

## 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
キクタンメディカル：聞いて覚える医学英単語(1)～(6)		アルク	医学英語，医療英会話の基本表現が網羅的に列挙されている。
Dr.押味のあなたの医学英語なんとかします！	押味貴之	メジカルビュー社	プレゼンテーションと病歴聴取のコツが具体的に書かれており，授業で扱っている内容を効果的に復習することができる。
The Complete Subjective Health Assessment <a href="https://ecampusontario.pressbooks.pub/healthassessment/">https://ecampusontario.pressbooks.pub/healthassessment/</a>	Jennifer Lapum et al.	licensed under a Creative Commons Attribution-ShareAlike 4.0	主観的健康観と文化的背景を平易な英語で患者に尋ねる技法が記載された open textbook である。
臨床のためのEBM入門 決定版 JAMAユーザーズガイド	古川壽亮 山崎 力 (監訳)	医学書院	EBMに関する定番書籍。体系的網羅的に，丁寧に解説されている。
臨床研究のABC	名郷直樹	メディカルサイエンス社	日本のEBM教育の第一人者の著者が，例を交えて解説しており分かりやすい。
EBM・臨床疫学キーワード150	福井次矢	医学書院	EBMを理解する上で重要なキーワードごとに端的な説明がなされ使いやすい。
いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ1～3	浅井 隆	アトムス	統計が苦手な人向けに読みやすく書かれている。

## 6 準備学習（予習・復習）

### 【それぞれの演習の予習と復習の方法】

#### <演習（語彙小テスト）>

小テストの準備のために，単語表プリントでの学習を日々進めること(1日あたり10分)。

#### <ケーススタディ演習>

授業内で登場した英語表現を復習すること，症状や疾患については各自で参考資料や UpToDate のサイトなどを調べて確認すること(1コマあたり約 0.5 時間)。

#### <論文読解演習>

授業で扱うことになった論文は，わからない箇所に囚われすぎずに一通り目を通すこと。要所をつかむために必要とされる箇所は何度も精読すること。AI 翻訳に頼り切るのではなく，自ら構文などを読み解くよう心掛け，英語力の向上を意識して取り組むこと。また，論文の内容を理解するための背景知識の不足を補うために，扱われる疾患に関する基礎知識や標準治療について各自で調べること(予習・復習合わせて1コマあたり約2時間)。

医用英単語の「からくり」は講義からある程度学ぶことができます。一方，英語を使いこなすには自立・自律学習が求められます。キャリアを通して一生使うものですので，毎回コツコツと身に着けていきましょう。その意味では授業はペースメーカーの役割でしかなく，小テストの正答率などをその目的地としてはいけません。また，上記の勉強時間はあくまで目安です。時間を費やすことを主とするのではなく，自分に必要な勉強時間数を確保してください。

#### 【授業を受ける際の注意】

授業には、ノートパソコンかタブレットを持参すること。スマートフォンの小さい画面は学習に不向きのため不可。  
小テスト演習は定期試験の準備も含まれていますのでわからない箇所はその都度丁寧に解消していきましょう。

#### 【欠席した場合の注意】

- ① 教務課だけではなく、科目責任者とその回の担当者に連絡を入れること。
- ② AIDLE-K 上の資料や、友人に確認するなどして、学習が途切れないよう心掛けてください。
- ③ 欠席した日の小テスト演習は別途受験することができますので希望する場合は申告してください。  
(点数は事由により多少の減点をする場合があります。)

## 7 授業計画

### (1) 講義の方法

大教室での知識伝達型講義と、問題解決型(アクティブラーニング・PBL)の演習の併用。

### (2) 講義の内容

Case Study 演習では、英語で行われる医療面接をシーンごとに区切り英語表現を学習したうえで、関連領域の専門家による解説講義が行われる。アクティブラーニング・PBL 方式の学習を採用する。なお専門家の回では質疑応答の場面が設けられるため、学生は能動的に参加することが求められる。

論文講読演習では、根拠に基づいた医療の基本概念、臨床研究論文の基本的な構成要素の学習と、英語で書かれた医学系の論文で頻出する英語表現の学習を主とする。その上で、関連領域の専門家による解説講義が行われる。なお、専門家の回では質疑応答の場面が設けられるため、学生は能動的に参加することが求められる。